

# 新嘗祭に米献納 「身引き締まる」

献納の感激を胸に、来年の収穫へ向けて田を耕す松永さん—紀北町海山区中里で



## 県内で唯一 紀北の松永さん

紀北町海山区中里の農業松永孝さん(五六)が二十六日、ことしの収穫を祝って皇居で営まれた新嘗祭にいひめまつりの献穀献納式で、精米一・五キを天皇皇后両陛下に献納した。

(藤原啓嗣)

一八九二(明治二十五年)年以来続く新嘗祭では、全都道府県から

紀北町では十一年ぶりの献納となる。

腎炎を患い健康に不安があったが、体と相談

た。

た。松永さんは「父から受け継いだ水田を守ってきたことが認められた感じ。二層ほど前に両陛下が目の前に立たれて、身の引き締まる思いでした」と感激

では松永さん一人で、

松永さんは大学卒業後に学習塾を経営する傍ら、父茂さんの稲作を手伝っていた。慢性

も最適と考え、三十代後半から農業に本腰を入れるようになった。

町の農業委員として減農薬にこだわったおいしい米作りを進め、地元の子どもたちの農業体験にも協力してきた。

ことしは父茂さんが一九九八年に亡くなったから十三回忌にあたり、今月は法要もあった。